

『かけがえのない派遣事業への参加』

下吉田中学校 希代 凜

コロラドへの姉妹都市派遣事業当日、私たちはたくさんの人々に見送られ出発しました。成田空港から10時間のフライトを終え、到着したデンバー空港は、見渡す限りの平地、そこからバスに1時間程乗ると、コロラドスプリングスの街が見えてきました。「本当にアメリカにきたんだな」という実感がわきました。迎えてくれたホストファミリーから、キッチリと書かれたスケジュール表をもらった時は、とてもわくわくしました。ホストファミリーは、日本が大好きで、20数年前住んだ日本での思い出を話してくれました。「このテレビ番組はまだやってるの?」「当時は日本でこれが流行していたよ」などの日本への愛があふれる会話をしました。家のすぐ近くの山にハイキングに行ったり、自転車で湖に行ったり、自分の肌でコロラドの大自然を感じることができて、とても気持ち良かったです。他にも、ピンポンをしたり、バーベキューやカードゲーム、ボードゲームをして楽しく過ごした時間は、自分も家族の一員となれたようでとても幸せで、話した英語が伝わったことが、本当に嬉しかったです。

ホストファミリーとどこかへ行ったり、一緒に過ごす時間はあっという間でした。そのぐらい、日本では味わうことのできない貴重な体験にたくさん触れられました。全員が集まったパーティーは、他の家の子供とも関わって、とても良かったです。そうしてホストファミリーとの3日間が過ぎ、派遣団で市内の見学をしました。市長さんと会ったり、ガーデン・オブ・ザ・ゴッズを見学したり、コロラドスプリングス市の名所や人と深く関わることもできた1日でした。私が今回、この派遣事業で感じたことは、「アメリカって、何もかも大きいな」ということです。住宅、道路、食べ物…でも、一番大きかったのは心でした。コロラドでの日々に出会った人々は本当に優しく、自分が英語に詰まった時や、何か困っている時は助けてくれたり、初対面でも、気さくに声をかけてくれて仲良くなったりと、日本にある「他人との壁」のようなものは一切なく、ありのままの自分を受け入れてくれて、とても仲良くしてくれるアメリカ文化には驚かされました。それと同時に「コロラドのこういう雰囲気がとても好きだな」と思いました。帰国の時は、本当に名残惜しかったです。「一生ここにいたい」とさえ思いました。最後は、ホストファミリーときちんとお別れして、再開することを約束出来ました。

今回の派遣授業は、コロナウイルスにより4年ぶりの実施となりました。今回実施できたのは、本当にたくさんの人々の支えがあったからだと考えます。派遣団員として送り出してくれた家族、中学校、市役所職員さんたちなどへの感謝とともに、今回の経験をこの富士吉田市に頑張って還元していきます。